

実験の切っ掛け

著者は、数多くの関節リウマチの患者さんと40年余の長きにわたって付き合いってきました。この付き合いの中で、病気が悪くなったり、また反対によくなくなったりすることをたびたび経験しており、どういう理由でこのようなことが起こるのか不思議に思っていました。

しかし、患者さんのお付き合いが深まれば深まるほど、どうもそれは、ご家族との死別、あるいはご家族の病気、また、人間関係の悪化、そして離婚などによる過度の精神的ストレスと密接に関係しているらしいと思うようになりました。

そこで、いろいろ調べてみましたところ、「心とからだ」「心と病気」についての関係を説いた書物が思いのほか多いことが分かりました。しかし、そのどれもが経験的なことにとどまっていて、今までだれも、健康な方と病気に悩んでいる患者

さんとの双方の協力を得て、科学的に、また心を含めて全人的にこの「心とからだ」「心と病気」との関連を証明していませんでした。私は、どうしてもこれを科学的に解明したいという欲求が湧いてきました。

「よし、自分が証明しよう」

さて、問題はその道の専門家ですら満足にやったことがないことをどうやって証明するかです。チンパンジー、イヌ、ネコ、ネズミなどと比較し、人はより雑種で、また人ほど感情などの精神活動が複雑と思われるものは見当たりません。この証明には、多数の方々の協力を得て実験し、その結果を統計学的に計算し、検証するしかありません。しかし、はたしてこれが人道的に認められる方法で実施できるのかどうかです。これが、まず解決しなければならぬ最初の難問でした。